



碧南ロータリークラブ週報

第2188回例会 平成15年8月27日(水) 晴.最高31℃.最低25℃

- 会長 加藤 良邦 ● 幹事 竹中 義雄 ● SAA 杉浦 成人
- 例会日 毎週水曜日 12:30 ■ 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90
TEL <0566> 41-1100 FAX <0566> 48-1100
ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>
E-mail: info@hekinan-rc.jp
- 会報委員 竹下 豊・新美惣英・鶴田光久・杉浦昌裕

2003~2004年度
国際ロータリーのテーマ

手を貸そう



Lend a Hand

● 齊唱

ロータリーソング「ロータリー讃歌」

● 本日のメニュー

和風弁当 大正館

● 本日のお客様

卓話講師 鈴木明美様

会長挨拶



碧南地球村代表 鈴木 明美様

私は土曜日、日曜日になると年忌に出掛けます。年忌では浄土三部経という3つのお経（無量寿経、觀無量寿経、阿弥陀経）を読誦いたします。本来、無量寿経上下2巻・觀無量寿経1巻・阿弥陀経1巻を続けて読みますと、どんなに早くても2時間はかかるお経ですが、今では1時間位に収まるように改編されました昭和式の浄土三部経を使わさせて頂いております。昔話に、父が安城の檀家さん宅に御伴僧さんを連れて2座の年忌に参ったそうでございます。その頃はもちろん昭和式ではありませんので、たっぷり午前2時間午後2時間掛けて、終わった頃には陽が暮れかかってきたそうです。やっとこれで帰れると思っていたら檀家さんから、もう1座やってくれと頼まれたので腹が立ったと言っていたことを覚えております。ちなみに私は、学生生活が終わり京都から帰ってきました頃には運良く昭和式に変わっていましたので、こんな経験はございません。また、年忌で思い出すのは、年忌ではお経の調子に合わせて叩く拍子木のような戒尺という道具を使います。戒尺は叩く人のセンス1つで、そのお経が重苦しくなったり軽やかになったりする大切な役割がございます。坊主になり立てのある日の夕方、突然父に「おい！明日の年忌の役僧をやれ」と言われ、一晩掛かりで戒尺の練習をして父と一緒に年忌に出掛けました。たっぷり冷汗をかいたのは言うまでもありません。年忌が終わって帰る途中に「漢字ではなくカタカナのお経を讀んでいる感じだったなぁ」と父に言われてしまつた経験がございます。また、結婚したての頃、黒田昌司君のおばあさんと一緒に名古屋の緑区へ年忌に行く機会がありました。年忌5座ということでお布施もたっぷり貰いまして、張り切って午前2座、昼から3座の予定で始めました。その時は、黒田昌司君のお父様もご健在で7、8名の方がお参りになっておられました。何座目が終わった頃か、昌司君のお父様に「おっさん、もういいぞ」と言われましたが、途中でやめるわけにもいかず続けていましたら、ふと気が付きますと私とおばあさんの2人だけになっていました。他の方は喫茶店やゴルフの打ちっぱなしに行かれてしまったということでした。やっとの思いでおばあさんと夕暮れまで掛かって5座の年忌を終えたわけですが、その後、名古屋の中華料理屋さんに連れられて、頂いたビールの味は今でも忘れることができません。

幹事報告

光岡会員増強委員長より卓話謝礼をニコボックスに入れて頂きました。

45周年記念式典編成表の各委員長は9月3日の実行委員会に素案を持参ください。

新入会員（碧南火力発電所所長佐藤氏）9月3日入会式開催

地区大会登録本日までに出欠の連絡を事務局へ

委員会報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数 75名（内出席免除者 15名）出席者62名	
出席対象者 51／60名	出席率 85.0%
欠席者13名(病欠者0名)	前々回修正出席率 100%

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

〈ニコボックス委員会〉

鈴木 並生君 中部新報に記事を載せていただきました。

鈴木 敏弘君 先日中部新報に記事を載せていただきました。

杉浦 勝典君 中部経済新聞に2日に渡り記事をのせていただきました。

PR出来ました。感謝しています。

竹中 義雄君 8月24日（日）岡崎市立北中学校にて、第42回西三河掃除に学ぶ会を開催出来ました。参加者350人で掃除に励みました。

犬塚社長様に大変お世話になり感謝しています。

犬塚 敦統君 本日の講師碧南地球村代表を紹介させて頂きます。

9/21 1年に1回の地球環境の講演があります。是非参加して下さい。

長田 豊治君 藤井達吉翁追弔法要 鶴頭忌が毘沙門天妙福寺さんで、無事に務まりました。皆様のご協力に感謝致します。ありがとうございました。

新美 宗和君 8月31日（日）に文化会館にて第20回にいみカラオケ「歌と舞の祭典」を開催します。観に来て下さい。

木村 徳雄君 木村徳雄でございます。久振りにRCに出席をさせて頂きます。又なんとかRCを続けますので宜しくおねがいします。

竹下 豊君 メーキャップが続きました。週報担当の皆さん申し訳ありません。

伊藤 正幸君 先日中日スポーツから取材していただきました。来週水曜日掲載予定だそうです。

早退 4件 合計 26,000円

卓話

「地球環境あれこれ」碧南地球村代表 鈴木明美氏

私が所属しております環境と平和のNGOネットワーク「地球村」の事と「地球環境」について話をさせて頂き、また、2年前の9月11日に起きたテロより話題になっているアフガンの人達の写真も少し用意してまいりました。9年位前に犬塚社長がハーフ岳で聞かれた経営セミナーで「売上をあげろ」と言われる多くの先生方の中でネットワーク地球村代表の高木善之さんだけは「これから時代は売上をあげることではなく、皆の幸せを考えていく経営をしていく方がいい」という話をされ、その後、犬塚社長が会社の方々、市民の方々に高木代表の話を聞いていただきたいと言うことで、私も8年前にこのご縁を頂きましてお話を聞かせて頂きました。当時私は名古屋出身で、結婚したての頃、世間を何も知らない者で結婚してから野菜がいつ採れるのかとか、にんじんの葉っぱがこんな形をしているのかとか、だいこんがこの時期にこの様に成るとかも知らない様なはずかしい者でした。地球村の方や多くの方々との出会いの中で、またこの碧南の地に来させて頂いて本当に生きるという事をその時から学び始めている感じです。私が碧南に来て8年になるのですが、その講演を聴いた8年前から1年ずつ歳を取って今やっと8歳になったのかな、という感じです。

さて、8月に入ってからの新聞記事を見ますとバクダッドテロ攻撃、少年の犯罪半年で63名等殺人に関する記事が多く見られます。珊瑚礁がオゾン層破壊で消滅の危機にある記事、身近な所

で衝撃的だったのは、ゴミ発電所が爆発炎上して消防士の方が亡くなったということがありました。主婦をしておりますのでゴミに関しては興味があります。なるべくゴミを出さないように工夫しておりますが、今本当にゴミの量が多くて、処理のしかたとして発電という処理方法もとっているようです。今回の発電所の事故は様々な要因があると思いますが、私たち主婦や市民一人一人のゴミに対する意識がこの様な方たちを生んだのではないかとも感じました。また、その横の記事でバクダッド国連爆発10名死亡、民間病院で医療ミスの報告が出来ていないなど気になるところです。また、ニューヨークでは機能マヒ続くという記事で電気が通らなくなってしまった、阪神大震災の時も1つライフラインが崩れると多くのことが麻痺してしまうという事実があります。そんな時自分がどのような行動ができるのかという事が大切なではないか、ロータリーさんの奉仕の精神、誠意と友愛はこういった所に繋がってくるのではないかと思います。起きてほしくない出来事の記事も多くありますがこの事に目をそらさずに自分の事としてみるようになつたのも地球村の講演を聴いてからです。それまでにたくさんの出来事があったと思うのですが、自分が全然そういう事に関心がなく他人のことは他人のこと、自分のことだけを大切にして来たような気がします。少しでも周りに関心が向くようなそんな自分で在りたいと思っております。

さて、この8月台風が来たり、雨が続いたり、涼しい日が続いて冷夏だったりと気候がかなり変わっていると思うのですが皆さんお感じになられますか。温暖化でおきる世界の状況ですが、少し暑いな、雨がよく降るな程度に私たちが感じる事が、気温のもともと低い氷河のあるような所ではかなりの影響が出ているようです。去年の記事ですが、ヒマラヤの氷河が溶けて湖がどんどん大きくなってきて決壊をしそうな状況でその下にある村落が非常に心配な状況です。一方温暖化に怯える南の島ということで紹介されるツバルという国では満潮になると住んでいるところに全部水が入り込んでしまい畠も塩害にあってる状況です。現地のNGOの方が寝る前には水がなかったのに朝起きたときには満潮でベッドの下まで水が来てびっくりしたというお話を聞きました。ツバルの人々はニュージーランドへ移る計画があるそうですが、故郷を離れる事はかなり寂しいことのようです。ドイツでは洪水が起きて動物園も水があふれ象が住めなくなり暗殺されたという新聞記事がありました。いろいろな命が色々な事で奪われているのが心痛みます。温暖化が進むと東京ではどのようにしていくか。気温が1度から2度上昇すると海面上昇が進んで行き海岸線が川越、浦和の方まで来る状況になります。碧南も同じような状況に陥ると言えると思います。氷河期と今のこの時代の温度差は2度から3度の違いです。これから先、2100年位になったとき今の平均気温より6度上ると予想されています。東京が沖縄くらいの温度になるらしいのですが私たち人間は北海道など北の方に行けばいいかと思いますが植物や小さな生き物は移動する事が難しいですし、先ほど紹介したように北の国の方が温度上昇が大きいので対応が難しいと思います。CO₂の排出量がアメリカに次いで日本は世界で2番目です。目標排出基準を現在の1/9にし地球の平均気温が現在の温度に保たれるようにする事が私たちのできる事ではないでしょうか。二酸化炭素が多く、温度上昇していくとアメリカの出来事ですが、水不足で作物が取れなくなる事も出てきます。2025年の地球は50億人分の水が不足します。世界の人口が60億人で50億人分の水不足、野菜などを作る水もなくなってしまう状況が予想されます。昨年ヨハネスブルグに行ってきましたが、水不足や食糧不足の深刻な状況でした。温暖化の影響で気候が変動して作物が取れなくなり飢餓貧困も増えて来ます。水不足にもなってきます。どうしたらこれらが解決できるのか、このような事実を知った時に自分から何かを始めなくてはいけないと思い、私が最初に始めた事は自分のはしを携帯することから始めました。かといって飢餓貧困がなくなるとは思えませんが、できることから始めようと思いました。日本の穀物自給率は24%程に低下しています。私たちは、いろんなものを日本製品だと思っていながらも外国から輸入したものを沢山頂いています。まだこれはほんの一部の事ですが、調べれば調べるほど聞けば聞くほど

地球上でいろいろなことが起こっています。ネットワーク地球村の活動の一つとしてテロから始まったアフガンの人達への支援プロジェクトを2年前から始めました。3回ほどアフガンへ行っておりますが、難民の方たちに薬、砂糖、お茶を届けに行きました。そのような支援をしても現地の人達は自立できません。いつもNGOが行って支援をするのは不可能です。アフガンの人達は戦争の犠牲者として見られていますが、実は温暖化の影響によって水がどんどん涸れて行って、ヒマラヤのように雪が解けてしまい、雪も雨も降らない状態が何年も続いています。バクダットや都市部では戦争の影響がありますが、郊外では、食べられない、水がないという事の方が深刻です。一方、私たち先進国の人達がCO₂出すことによっておきている様々な被害を難民たちは「どうして雪や雨が降らないのだろう」と不思議に思っているようです。ここでアフガンに行った仲間の手紙を紹介したいと思います。

「皆様お久しぶりでございます。アフガニスタンから帰国し1週間後に腸チフスという感染症に罹り激しい頭痛、40度を超える高熱で悶えておりました。その際、皆様からの温かいお見舞い、励ましのお言葉を沢山頂き大変うれしかったです、ありがとうございました。さて、ストップザ温暖化キャンペーンに対し、今熱い思い入れがあります。今アフガンでは数年間地球温暖化による干ばつに見舞われております。僕がいったハバラジャードのスルハバッド郡はもともと自給自足で皆が助け合って平和に暮らしていました。でも、この干ばつにより雨が降らないのです。本来であるなら6ヶ月は雪が山頂に残っていて雪解け水で畑を潤し、人々に飲水を提供してきました。今まで僕が行った5月まで1mは雪が積もっていたそうです。でも最近は50cmも積もらなくなってしまいました。そして今3年前からの干ばつにより、大切にしてきた家畜を売り、畑を売り親戚から借金をしてやっと暮らしております。でもその生活も限界です。嘆願書 どこから駆けつけたのか集会場には100人を超す村人が沢山集まっていました。そして僕たちに嘆願書を持ってきました。その数は実に45枚スルハバッドの村の数が120村、その中の45の村長さんたちが集まってきたのです。朝6時にきた村長さん、3時間も待って来た村長さんや6時間も歩いてきた村長さんもいました。みんなの願いはとにかく水の確保です。ダムを作ってほしい、水路を作ってほしい、地下水を掘ってほしい、みんなの村が深刻です。僕は本当にショックだったし悲しかったです。だって僕はこの温暖化の原因も知っているし解決する方法までも知っている。でも今までの僕は地球温暖化を知識でとらえていたように思います。現実の温暖化の被害を見て体験して、今後これから彼等の生活はどうなるのか容易にイメージできました。今までの僕は何をしていたのだろうと、すごく自分を責めました。彼等の嘆願を聞きながらごめんなさい、本当にごめんなさいと何回も何回も謝りました。僕が彼らにできる本当の支援は根本である温暖化を止めること、僕たち先進国のライフスタイルを変えていくこと。現実を多くの人達に伝える事、一人でも多くの人達に、できる事から始めてもらう事、その一つがこのストップザ温暖化キャンペーンです。僕はぜひやってもらいたいです。本当に皆さんにお願いしたいです。多くの人が実際に二酸化炭素を、一緒にやれば二酸化炭素は減ります。それはやればできるという実感と自分が広めていくという勇気が湧いてきます。それを皆で行動していったら希望への第一歩だと思います。一人でやるより皆で一緒にやった方が効果的だし楽しいと思います。」というお手紙を頂きました。アフガンの子供たちの笑顔を見ていると日本にいる私たちが彼等の生活に何か出来ないかと思います。拙い話でしたが、何か皆様の参考になればと思います。ありがとうございました。

次回例会案内／9月10日（水）「風土美学—百姓道のすすめ」
株舟橋植木 代表取締役 舟橋伸治氏